

実践報告

看図アプローチを活用したオンライン授業の実際 —医療系大学における「教育学」授業を例にして—

石田ゆき¹⁾

キーワード：看図アプローチ・オンライン授業・Teams・アクティブラーニング・医療系大学

概 要

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、筆者の勤務校でもオンライン授業を実施することになった。これにより、普段の対面式授業のように、直接ビジュアルテキストを配付し、読み解きながらグループで活発に対話するということはできなくなった。しかし、どのような状況であっても、授業においては「主体的・対話的で深い学び」を実現していく必要がある。勤務校では「Teams」を扱うことになった。看図アプローチの基本的な授業スタイルはそのままに、Teams のチャット機能を活用して「対話的」な状況づくりを試みた。学習者たちのレポートからは、対面式授業に遜色ない好意的意見が多く得られた。どのようにしてオンラインで看図アプローチ基盤型授業を行ったのか、本論文では医療系大学における「教育学」の初回授業実践を報告する。

I. 問題と目的

新型コロナウイルスの影響で、筆者の勤務校ではGW明けからオンラインで授業を実施することになった。筆者は対面式授業において毎回「看図アプローチ」を取り入れて授業構成をしてきた。対面授業であれば印刷したビジュアルテキストを配付しながら授業を展開していく。また、普段の対面授業では協同学習も取り入れている。しかし、オンライン授業になると、現在日本の教育が目指している「主体的・対話的で深い学び」で重要な役割を果たす「対話的」活動ができない。勤務校では Microsoft の Teams を使ってオンライン授業を行うことになった。Teams というシステムの制約の中でどのようにして「主体的・対話的で深い学び」を実現したのかそのプロセスを報告していく。

II. 授業の目標等

II-1 授業科目・授業者・学習者等

本稿で紹介するのは医療系 A 大学・リハビリテーション学科 2 専攻（理学療法・作業療法）の学生たちに行った「教育学」授業である。全 8 回授業（1 単位）の第 1 回目実践（90 分）を報告する。授業者は本稿筆者石田ゆき、学習者は理学療法 75 名・作業療法 17 名、計 92 名。全員 1 年生である。

なお次のような倫理的配慮をした。受講者からはレポート等を授業の中で紹介すること及び論文等で紹介することについての承諾を書面によって得ている。承諾を得られなかった学生（承諾書未提出も含む）の資料は活用していない。このため、受講登録者は 92 名であるが、分析や考察には 82 名分のデータを用いた。

1) 日本医療大学

II-2 授業の目標

「教育学」授業の全体目標

現在の日本では話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの4つのスキルによって学力が形成されている。しかし、英語圏や中国語圏では、この4つのスキルに加えて「みること」による学力形成がはかられている（奥泉 2018, 鹿内 2015a, 2015b）。

将来医療系の職業に就く学生たちにとっても「みること」は必要不可欠な学力となってくる。そこで筆者が担当している「教育学」では、学習者が将来必要となる「みる学力」＝「ビジュアルリテラシー」を育成することも目標としている。

本授業の到達目標

今回のオンライン授業実施は突然決まったものである。授業者はもちろん学習者も「手探り」の状態で行っていかねばならなかった。しかしどのような状況下であろうと授業者は学習者の資質・能力を高める授業を提供しなければならない。そこで今回は、次のような「到達目標」を設定した。

1. Teams を用いた看図アプローチ基盤型オンライン授業に参加することができる。
2. 看図アプローチの大切さ（「みること」の大切さ）に気づくことができる。
3. 「教育学」に興味をもつことができる。

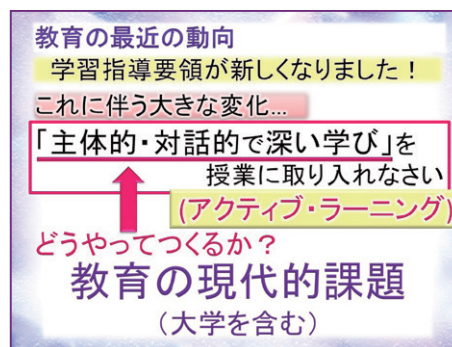
III. 授業の実際

III-1 ステップ1-導入

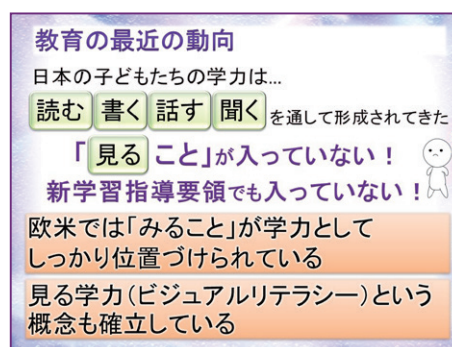
上に述べてきたことを学生たちにも伝える。それは次のスライド1～4を用いて行った。



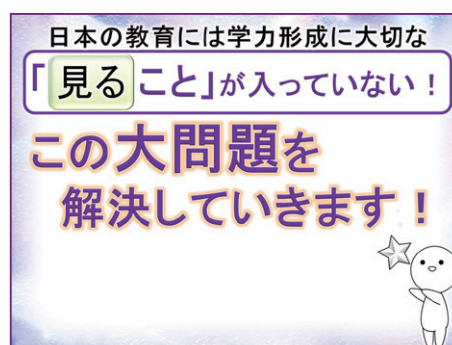
スライド タイトルページ



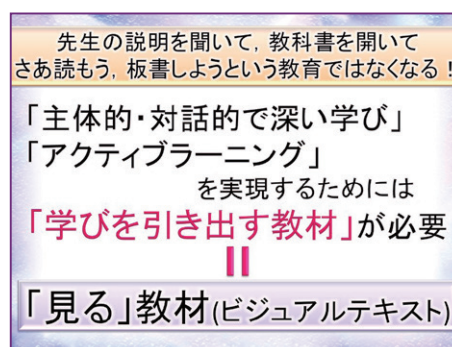
スライド 1



スライド 2



スライド 3



スライド 4

スライド中の文字情報は一括呈示していない。アニメーション機能を活用し、一行または一文ずつ順番に呈示していく。授業者は、補足説明を加

えつつそれを読み上げていく。スライド 2 の『『見る』が入っていない』という一文を表示させる前には「何か足りないものってありません？思いついた人がいたらチャットの方に書いてもらえますか？何か抜けているものないかな？」と問い掛けを行った。すると、10 数秒後に次のような返答が返ってきた（チャット記録 1ー全 14 件）。



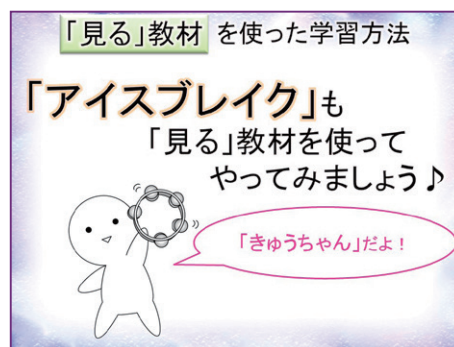
チャット記録 1

チャットが出て一段落した時点で、「見る（みる）」と回答した学習者に対しては授業者から賛辞をおくった。「考える」「試す」と回答してくれ

た学習者には、『『考える』や『試す』は読む・書く・話す・聞くに『見る（みる）』を加えた活動を通して行われていく営みであること』を言い添えた。なお、ここまでで授業のガイダンスも含め 30 分程度経過している。

III-2 ステップ 2ーオンラインでアイスブレイク

導入ステップのあと、ビジュアルテキストの一例として「きゅうちゃん」^{注1}を紹介し、「見る（みる）」を活用してアイスブレイクを行うことを伝えた（スライド 5）。



スライド 5



スライド 6

続けてスライド 6 を呈示し、次のような手順ですすめていく。

【発問】 あなたの今の気持ちに一番近いきゅうちゃんはどれですか？理由も考えてください。複数選んでもらってかまいません。

この発問の後、数分（5 分程度）個人思考の時間を取り、チャットタイムに移っていく。はじめの数名が番号のみの回答であったため、次のように指示した。

【指示】すでに、何番と決めている人はいるようです。ちょっと内容にもふれてもらえませんか？

この発問・指示に対し全部で 54 名の回答が出された。チャット操作に慣れていない学生がいることに配慮し、授業者はできるだけたくさんのチャット回答を読み上げながら共感的言葉を言い添えたり笑ったりしてリアクションしていく。学生には、できる限りチャット欄を見るよう促す。この間、約 5 分程度経過している。学習者同士の「対話」はできないが、このようにチャット内容を共有することによって「対話」に近い環境をつくっていく。チャット記録の一部を載せておく(チャット記録 2・3)。なお論文等への承諾が得られなかった学習者の書き込みには内容部にもモザイクをかけている。



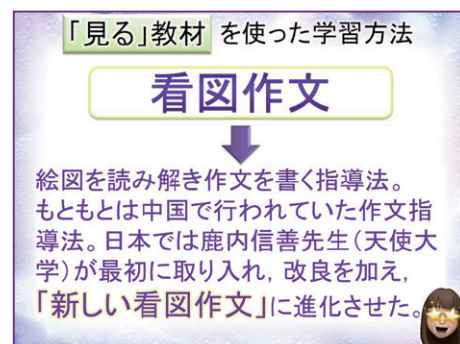
チャット記録 2



チャット記録 3

III-3 ステップ 3ーオンラインで看图作文

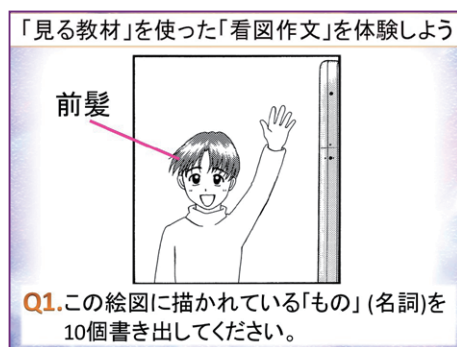
「見る」を通して学んでいくという授業スタイルに少し慣れてもらったところで、さらに「看图作文」に挑戦してみる。スライド 7 によって看图作文について簡単な説明を行った。



スライド 7

次に「手を振る少年」絵図を呈示する（スライド 8）。続いて「Q1」を読み上げ、「前髪」という回答例を示す。看图アプローチの授業は「ものこと原理」によるビジュアルテキスト読解から始めることが多い。「ものこと原理」についての説明は（鹿内 2018,p.4）でなされている。そのため本稿ではその説明を割愛する。今回の授業の中においても学習者たちには「ものこと原理」についての説明は行わず、まずは「見ること」に親しんでもらうということを重視した。

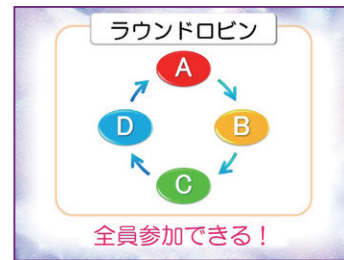
看图作文の授業も「ものこと原理」で始めていくことができる。はじめに手元のノートなどに「もの」を 10 個書き出してもらおう。なお、スライド中の絵図は筆者石田が看图作文用に開発したオリジナル作品である。



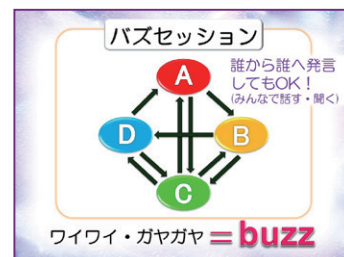
スライド 8

「もの」を 10 個書き出す活動は、およそ 2 分程度の個人思考で終了する。個人思考が終わったらスライド 9・10 を順に表示する。「本当は教室でこのようにやりたいんだよ、という話なのですが…」と前置きした上で「ラウンドロビン」「バズセッション」についてふれる。オンライン授業のため「対話」はできないが、チャットを貴重なコミュニケーションツールとして「主体的に」活用する意識を高めさせるねらいがある。

スライド 10 を呈示・解説したあと、スライド 8 中の「Q1」に対する回答をチャットしてもらおう。チャット内容の一部を次に載せておく（チャット記録 4・5）。ここでは約 1 分の間に 50 件のチャットが寄せられている。



スライド 9



スライド 10

2	正方形	2020/05/14 12:24
2		2020/05/14 12:24
2	えり	2020/05/14 12:24
2	鼻	2020/05/14 12:24
2	耳	2020/05/14 12:24
2	目	2020/05/14 12:24
2	顔	2020/05/14 12:24
2	鼻	2020/05/14 12:24
2	耳	2020/05/14 12:24
2	笑顔	2020/05/14 12:24
2	左手	2020/05/14 12:24
2	小指	2020/05/14 12:24
2	中指	2020/05/14 12:24
2	耳	2020/05/14 12:24

チャット記録 4



チャット記録 5

ステップ 2 と同様に、授業者がチャットを読み上げながら内容を共有していく。学習者のチャット入力と授業者の読み上げが同時進行になっていったため、途中「これから入力する人は読み上げたもの以外を書いてください」と伝えている。

チャット共有が落ちついたところで、スライド 11 を表示する。「今あげてもらった『もの』の中にこれだけはなかったと思うんです。」と言い、「Q2」の発問を呈示する。

この時点で授業開始から約 75 分が経過していた。そのためここでは、個人思考の時間を取らずに順次「何に見えるか」をチャットに入力してもらったことにした。指示から間もなくたくさん

のチャットがあがってきた。授業者はどんどん読み上げていった。2 分ほどの間に 41 件出された。チャット記録の一部を載せておく（チャット記録 6・7）。



スライド 11



チャット記録 6



チャット記録 7

最後のワークとしてスライド 12 を表示する。



スライド 12

「他の人のアイデアを借りても良い」ということを伝え、「Q3」発問を呈示する。1 分ほど個人思考の時間を取り、その後チャットを促していく。このチャット入力とチャット内容共有にはおよそ

3 分を要した。チャットは 26 件あった。チャット記録の一部を載せておく（チャット記録 8）。なお、ここまでで授業時間は 80 分ほど経過していた。



チャット記録 8

IV. 提出課題

最後に、次のレポート課題を呈示した。

【課題 1】「あなたの今の気持ちに一番近いきゅうちゃんはどれですか？理由も考えてください。(複数選択可)」という質問・指示に対する回答を文章化してください。

【課題 2】今日の授業で学んだこと・考えたこと・感想を書いてください。

これらの課題を、授業用に特設したメールアドレスもしくは Teams の個人チャットで提出してもらった。締切は翌日とした。なお本稿では紙幅の都合で【課題 1】のレポート紹介は割愛する。【課題 2】については次章 V の考察で紹介していく。

V. 結果と考察

V-1 看図アプローチ基盤型オンライン授業への参加度

今回の授業実践では、次の事項を到達目標の第 1 として設定した。

1. Teams を用いた看図アプローチ基盤型オンライン授業に参加することができる。

Teams のチャット機能を活用することにより、学習者が授業に参加している様子を可視化することができる。前章まででそのチャットの具体例を見てきた。ここでは今回の授業でのチャット回数を数値にまとめて表 1 に示しておく。

表 1 チャット回数の割合

N	Σ	$\bar{x}$	SD	MAX	MIN
82	193	2.35	1.66	6	0

本実践では、学習者 1 人あたり平均 2.35 回チャットに参加していた。ただし最小値が 0 であった。チャット数 0 の学生は 14 名だった。17.1% の学生がチャットに参加していない。逆に、82.9% の学生はチャットに参加していたこ

とになる。チャットに参加していた学生たちの、チャットを取り入れたことに対する評価は高い。今回の授業では、授業の最後に「今日の授業で学んだこと・考えたこと・感想」を書いてもらっている。この中で、チャットについての感想を書いた学習者も多く見られた。代表的な感想を 3 例載せておく。チャットについてとくに述べている箇所には下線を付す。

学習者 1 のレポート

今日の講義の感想は、自分が今日まで受けた中の講義でチャットも活用して授業をした先生がいなかったためとても楽しめました。特に自分の中で印象に残ったのは男の子のやつで、色々な人の発想もみれて途中から少し大喜利っぽくなった部分もあったのも自分の中では楽しめました。先生との距離が近いということもオープンキャンパスで大学の先輩が口にしていたのでほんとその通りだなと思いました。また、高校の授業とはとても違って大学の授業は頭を使うし、やりがいがあると思いました。教育学を選択したからには、見る授業としてしっかり講義に集中していきたいと思います。

学習者 2 のレポート

今回初めて私は教育学を学びました。一番記憶に残っているのは、書く、話す、聞く、読むの 4 つのキーワードと、それとプラス見るという単語です。でも、その 4 つ中に見るというキーワードが入ってない事を石田先生の話で知りびっくりしました。てっきり見るという当たり前のことが入っているものだと思っていました。また、他の授業にない発言の機会が多く、90 分の講義ですが、時間が早く感じ、とても楽しく快適に受けることが出来ました。次回の教育学も楽しみです。

学習者 3 のレポート

この講義を聞いて一番最初に感じたことは、どの教科よりも楽しい講義だなと感じました。今日までの講義はひたすら画面を見続けてただ聞いているだけの感じだったのですが、この講義は自分たちも参加しながらできたのでものすごく感心しました。教育の最近の傾向や、日本の子どもの学力についてなど自分が知らなかったことがたくさん学べたと思います。自分の意見を書いたり、考えたり、チャットで発信できたりしたので夢中になり気がついたら講義が終わっていてビックリしました。

V-2 「看图アプローチの大切さへの気づき」 および「教育学への興味関心」

本実践では次の2つも到達目標として設定していた。

2. 看图アプローチの大切さ（「みること」の大切さ）に気づくことができる。

3. 「教育学」に興味をもつことができる。

学習者がこれらの目標に到達できていたかどうかを、学習者が書いてくれた「今日の授業で学んだこと・考えたこと・感想」をもとに評価した。この資料のうちの3つの事例は学習者1～3としてすでに掲載してある。このような資料82名分について、次の基準によって評価した。

目標到達度の評価基準

- 2. 「看图アプローチの大切さ（「みること」の大切さ）への気づき」について記述されている・記述されていない
- 3. 「教育学への興味関心を示す内容」について記述されている・記述されていない

この基準で、筆者と、教育学を専門とする大学教員1名がそれぞれ独立に評価した。その結果

「2. 看图アプローチの大切さ（「みること」の大切さ）への気づき」についての評価一致率は86.6%、「3. 教育学への興味関心を示す内容」についての評価一致率は95.1%であった。これは十分に高い一致率であると判断した。2名の評価が一致しないものは合議により評価した。その結果、「2. 看图アプローチの大切さ（「みること」の大切さ）への気づき」について記述している者は67名であり、目標到達率は81.7%であった。「3. 教育学への興味関心を示す内容」について記述している者は73名であり、目標到達率は89.0%であった。

実際にどのようなレポートが提出されていたのか、以下に12例あげておく。各レポートには評価結果も付しておく。なお、学習者14・学習者15は「2. 看图アプローチの大切さ（「みること」の大切さ）への気づき」について「記述されていない」と評価されていた。しかし、学習者14も学習者15も授業全体に対する感想は非常に好意的である。このような学習者もいるため上掲の目標到達率81.7%および89.0%は、数値的印象よりも高い到達率に至っていると筆者は考える。

学習者 4 のレポート

私は教育学についてとても興味があり、特に子どもに教えるということの中で何が大切か、いろんな人がいる中で何が大事になってくるのか学んでみたかったです。なので、受講してみてこれからの授業がもっと楽しみになりとても気になりました。

現代の教育の傾向や課題について今までは授業を受ける側でしたが先生側の問題点なども知れたことであの時にあんな授業を始めたのはこのような理由があったからなのだと今になって知ることができました。

また、「見る」ということを意識して授業を受けたことでたくさんの興味を持ち楽しく授業を聞くことができました。これから「見る」ということを意識して授業を受け、学んでいけたら楽しくいろんなことを学べると思ったのでい

んなところで実践してやっていきたいです。

評価結果 **到達目標 2** の評価 (○) *
 到達目標 3 の評価 (○)

*「○」はそれぞれの到達目標について「記述されている」と評価されたもの。「―」はそれぞれの到達目標について「記述されていない」と評価されたもの。以下同様。

学習者 5 のレポート

感想は、正直あまり教育学を受ける気はなく、友達と同じにしようと思って選んだのですが、授業がとても楽しく、退屈にはなかったです。いつもは画面を見てるとウトウトしてしまうことがあるのですが、アクティブラーニング授業だったのであつという間に時間が過ぎていったのと、「見ること」で教育学について深く学べた気がしました。全部の授業がこんな感じだったら、もっと楽しく、深く学べるのになあと感じました。将来セラピストになった時、患者さんとの間で教育学で学んだことを発揮出来るように、積極的に自分で考える力などを身につけたいと思います。

評価結果 **到達目標 2** の評価 (○)
 到達目標 3 の評価 (○)

学習者 6 のレポート

初めて教育学を学び、今の教育の課題や日本の教育は他国よりも遅れていること、読む・書く・話す・聞くだけでなく「みる学力」が必要になってくることを学び、これからの時代は学習方法・授業方法を見直し、先生も生徒も学力を磨く必要があると考えました。実際にビジュアルテキストを使った授業で、きゅうちゃんや画像を見て、自分の考えが広がり他の人の意見を聞くことでさらに考えが深まり、とても面白く楽しく学ぶことができました。また、ラウンドロビンやバズセッションは一人ひとりの意見が聞けたり、考えが深まり、広がり、チーム医療にとっても繋がることだと思いました。

評価結果 **到達目標 2** の評価 (○)
 到達目標 3 の評価 (○)

学習者 7 のレポート

教育学は、はっきりとこれ!!!と答えを出さなくてもいい、疑問を持つことがいいと分かりました。今回の講義を受けて学校で直接グループになって話し合いをしたかったのですが、このオンライン授業を「見る」という目線で楽しく学んでいきたいと思いました。これからの教育学で自分自身の知識にしていけるように頑張っていきたいと思います。

評価結果 **到達目標 2** の評価 (○)
 到達目標 3 の評価 (○)

学習者 8 のレポート

初めは教育学と聞き、シラバスを見ると授業内容がカタカナや英語の未知の単語が並んでいたの、これはまずい、ついていけないかな…。と頭を抱え込んでいましたが、今日講義を受けると、とてもアットホームな感じですごく安心してしまいました。遠隔授業でこんなに楽しいということは、登校できるようになって対面授業だったらもっと楽しい授業なんだろうと強く感じました。ビジュアルテキストの一つのアイスブレイクをやってみて想像力や表現力が問われて、やっている側も楽しいし、それと同時にそのような力が身につくということは良い学習方法だと思った。

評価結果 **到達目標 2** の評価 (○)
 到達目標 3 の評価 (○)

学習者 9 のレポート

初めて教育学の授業を受けてみて、他の授業に比べて先生の話をつただ聞くだけではなく、自分の頭の中で考えて意見を言い合う形の授業は楽しく感じた。時間もあつという間に過ぎたような気がした。今日の授業で「みる」学力を磨くことで授業の理解が広がることを知った。これから先、セラピストとして社会で働く上で「みる」力は大きく関わるのでしっかり身につけていきたいと思った。患者さんをひと目見て、どんな小さなことであってもすぐに分かってあげ

られる、気付いて行動できるような人になりたい。

評価結果 到達目標 2 の評価 (○)
到達目標 3 の評価 (○)

ので、これからの授業もどのように展開するのかとても楽しみです。

評価結果 到達目標 2 の評価 (○)
到達目標 3 の評価 (○)

学習者 10 のレポート

今日の授業で共感したのが、見ることは大事ということです。自分は高校はバスケット部でしたが、今までは全然違うスポーツをしていて初心者でした。そこから頑張って上手くなろうと思って最初にやったことが上手い人のプレーを見ることでした。見ることで、どうしたらあのプレーができるのか、相手の癖はどこかなど色々学ぶことが出来たので、見ることはとても大切だと共感しました！

評価結果 到達目標 2 の評価 (○)
到達目標 3 の評価 (－)

学習者 13 のレポート

感想ですが、すごい分かりやすかったです。私自身、A 大学を目指す前に教育大学を目指していたので教育学を選択させていただきました。先生の話すスピードやスライドの速度なども自分にとってちょうどよく気持ちよく受けることができました。これから『見る』ことに注目して授業を受けたいとおもいます！

評価結果 到達目標 2 の評価 (○)
到達目標 3 の評価 (○)

学習者 11 のレポート

今日の授業の感想としてはまず自分もアクティブラーニングが大切だと考えていて、今の現代、そしてこれからはコミュニケーション能力が一番必要ではないかと考えていて、先生と考えることが似ていてすごく勝手ですが親近感が湧きました。そして医療従事者を目指すものとして、基礎はもちろんですが、患者さんに教えていかなければいけない存在にもなると思うので、教育学をもっと学びたいと思いました。

評価結果 到達目標 2 の評価 (○)
到達目標 3 の評価 (－)

学習者 14 のレポート

初めての授業を受けてとても面白かったです。最初は、堅苦しく難しい授業をするとイメージをしていたのですが、優しい雰囲気でも分かりやすい授業で最後まで集中して受けることができました。高校の授業などで話し合いをしていましたが、その話し合い方に名前がついていたことを知って、身近にあるものにさらに興味が深まりました。

評価結果 到達目標 2 の評価 (－)
到達目標 3 の評価 (○)

学習者 12 のレポート

教育学に興味を持って選択したわけではなかったのですが、他の授業とは違い先生が独自の目標を持っていて、受けたことがないような授業形態だったので、第一回目でも、とても楽しく授業に取り組めました。確かに今までは【見る】ということに焦点を当てたことがなかった

学習者 15 のレポート

先生の声が今まで授業した中で 1 番聞き取りやすかったです！！授業も楽しく、1 番好きな教科になりそう。いや、なってると思います！パワーポイントも見やすくて助かります。大学重たい授業ばかりだなー。と思っていましたがとても楽しくて気持ちが軽くなりました！早く先生にお会いできる日を楽しみにしています！

評価結果 到達目標 2 の評価 (－)
到達目標 3 の評価 (○)

VI. おわりに

授業者も初めてのオンライン授業実践であったが、看図アプローチ基盤型授業を活用したことで学生らの積極的参加を促すことができた。また、感想には初回ながらポジティブな記述が大変多く見られた。

学習者 14 と学習者 15 は、教育学への興味・関心は示しているが「看図アプローチの大切さ（「みること」の大切さ）への気づき」については言及していない。しかし、8 回の授業を通して「みることの大切さ」を十分に認識できるようになった。このことを示すために学習者 14 と学習者 15 の期末レポート課題（この授業の最終レポート課題）の回答を見ていく。

学習者 14 の期末レポート

見る教育があるのとないのでは思考力、判断力、表現力に大きな差が出ると思います。健康で特に障害もなく生まれてきた人は、生活の中で赤ちゃんの頃から「この色は青」「あれはお花」などと教えてきてもらったものは全て目から情報が入ってきています。耳や聴覚から入ってくる情報もありますが、ピアノを覚えるときも「ドの音はこんな音で鍵盤はここ」というふうに必ず見えています。表現もお母さんの顔を見て育ってきて、眉毛が下がって口角も下がっているのが悲しい顔、歯がたくさん見えて大きな口を開けていて目がキラキラしているから楽しいんだなど覚えてきたはずです。

視覚があるということは観察ができます。そこから思考につながるの、見る教育がないと思考力が低下します。思考力がないと相手にどう伝えようかとかをまず考えられないと思います。結果、伝えられないから最初から伝えようとしなくなります。**人は見ることから始めるのに、見ようとしないと始まりません。**それでは「主体的・対話的で深い学び」ができないため、やはり見る教育は重要だと思います。

学習者 15 の期末レポート

私は今回の教育学を選択してとても良かったと思っています。見方によって様々な角度から沢山の情報を得ることが出来る点が素晴らしいと思いました。他にも、他者の考えや発言がわかる授業だったことにより、自分の力だけよりも情報を得ることが出来る力が身につきました。**見る教育はほんとに大切ということが分かりました。**普段何気ない生活の中にもたくさんの情報があることが分かったのでこれから周りを気にしながら考えながら行動していきたいと思っています。私は、スライドのゆきちゃん**が毎回変わっていることに気づけなかったのもまだまだ力は足りないのですが少しの変化にも気づける人間になりたいです。

**これについては本論文末で補足説明をする。

学習者 14・学習者 15 はこのように授業全体をふり返ってくれている。第 1 回目授業で抱いた学習意欲が実を結んで、さらに将来に向けての学習意欲につなげている。冒頭に述べたが、この「教育学」の授業では学習者が将来医療人として必要不可欠な「みる」能力を育成することを大きな目標として設定している。「みる」能力を育むことはもちろん、自ら学び続けようとする意欲を育むことは「教育」そのものの目標でもあるだろう。このような大きな目標に到達するためには、学習者たちの実態に合わせた教員の創意工夫が必要不可欠である。

今後も看図アプローチ基盤型授業実践を重ねるとともに、オンライン授業で行う際の具体的方法を提案していきたい。

引用・参考文献

- 石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチー絵本づくり授業実践の報告ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1 号 pp.2-15
- 奥泉香 2018 『国語科教育に求められるヴィ

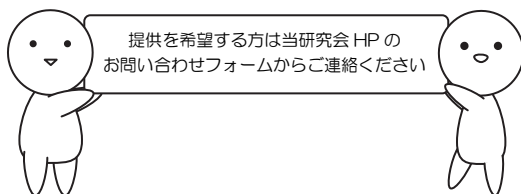
『ジュアル・リテラシーの探究』 ひつじ書房

鹿内信善 2015a 『改訂増補 協同学習ツールの
つくり方いかし方 看図アプローチで育てる学
びの力』 ナカニシヤ出版

鹿内信善 2015b 「『看ること』から始める授業
づくり 看図アプローチとは何か」 『看護教育』
56巻8号 医学書院 pp.774-779

鹿内信善 2018 「聴覚特別支援学校における看
図アプローチを活用した授業づくり(Ⅰ)ー
F校に対する看図アプローチの紹介活動ー」
『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第5
号 pp.1-7

注1 「きゅうちゃん」は様々なレパートリーが
作成されている。「きゅうちゃん」は全国看
図アプローチ研究会が開発してきたオリジ
ナルキャラクターであり、様々な場面でビ
ジュアルテキストとして活用できる。「きゅ
うちゃん」の比較的詳細な紹介は石田他
(2019) である。なお教材として活用
しやすいように「データ」での提供もできる。



注2 本研究の一部に 16K04728,
および 19K10791 を活用した。

2020年12月25日受付

2021年1月17日査読終了受理

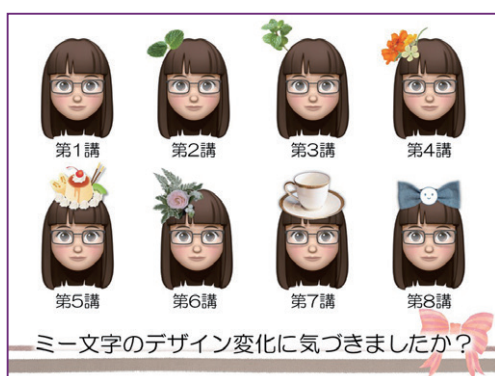
補足資料

学習者 15 の期末レポートに出てくる「スライドのゆきちゃん」とは次のようなものである（スライド 13）。なお、この呼称は学習者 15 によるものである。



スライド 13

スライド 13 ○中の「ミー文字」は、筆者が「授業者石田のイメージ」として作成したものである。オンライン授業の際は開始時から終了時まで、基本的にパワーポイントだけを表示（画面共有）させていた。これは、慣れない Teams 環境下での誤操作を防ぎ、安定した通信環境を維持するためである。そのためこのイメージを筆者の代わりとして毎回登場させることにしたのだが、「ちょっとした遊び心」で毎回アレンジを加え変化させていた（スライド 14）。



スライド 14

スライド 14 とその問い掛けは、対面授業として行われた教育学授業の最終回（第 8 回目授業）のおわりに短時間で呈示したものである。第 7

回目授業までに 1 名だけが「変化していることに気づいた」と伝えてくれていた。些細なことかもしれないが、このような小さなところにも「みる」ことの面白さ・発見の楽しさはつくれるのではないだろうか。